

12.9.11

W8-171

日本テピア 珪藻土使い高燃焼効率かまど

ネパールでの生産・販売へ調査

・ピラミッド(貧困層)向け
ビジネス可能性調査。テピアや
イソライト住機(石川県七尾
市)などの4社が共同提案し、
8月にJICAと契約した。

珪藻土は、保温・断熱性に優
れ軽い特徴を持つ。この素材な
どを原料とするレンガを密閉性
を保つ独自の工法で積み上げ、木
質バイオマス燃料の燃焼効率を
高めたかまどを実現する。

耐火断熱材を手がけるイソラ
イト工業グループのイソライト
住機は、かまど製造で実績をも
つ。その知見を活用し、ネパー
ル人の生活様式や購買力に合っ
たかまどを現地で生産・販売す
ることを目指す。調査期間は、
2013年6月まで。まずは、珪藻

土を現地で入手できるかなどを
調べたうえで、試作品の検証を
進める。13年中にも生産を開
始。20万台の販売をねらう。

ネパールの人口は約2640万人
で、その97%が年収3000ドル(約
23万5000円)以下の貧困層と推
定されている。その層に浸透し
ているのが、土製かまどに熱源
の薪を入れて火をおこし鍋など
を加熱する調理文化だ。

しかし、薪の購入費が家計に
重くのしかかる一方、かまどか
らのすが民家の屋内空気を汚
染してきた。さらに、土製かま
どの燃焼効率が低いため、薪の
消費量が拡大。これが過度の森
林伐採を招く中、森林を適切に
保護し地球温暖化防止につなげ

キラリ!
わが社の商品・サービス

無数の小さな穴をもつ天然素
材「珪藻土」を生かし、少量の
薪で効率的に加熱できるかまど
(煮炊き用調理器具)を生産
一。環境コンサルティング業の
日本テピア(大阪市西区)は、
そうした事業をネパールで実現
することをめざし、調査に乗り
出した。珪藻土製かまどを現地
で販売し、途上国の生活水準向
上と環境保全に貢献する。

今回の取り組みは、国際協力
機構(JICA)の委託を受けて
進める「BOP(ベース・オプ

カトマンズ大学の研究室で日本製珪藻土
かまどの燃焼効率を評価した三ネパール



る課題にも直面していた。

それらの実情を踏まえ高効率
かまどの普及を図る方針で、小
売価格は1台当たり約35ドルを想
定している。その製品によって
削減された二酸化炭素(CO₂)
排出量は、取引可能なクレジット
ト(排出枠)にする。35ドルは原
価を割る水準だが、クレジット

の売却収入を得ることによって
低価格に抑える。

調査執行責任者を務めるテピ
アの石毛寛人・主任研究員は
「日本の中小企業の技術力を生
かし、ネパールが抱える多様な
問題の解決に役立ちたい」と熱
く語る。

(日井慎太郎)